

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「村ぶる戦略 北山村」～じゃばら・いかだ・飛び地を活かした自立性の高いむらづくり～		
(2) 実施団体名	北山村再生推進協議会	(3) 対象地域	和歌山県北山村全域
(4) 代表団体名	和歌山県北山村	(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	「じゃばら」を活用した商品開発とマーケティング	
	実施主体	地域生存支援有限責任事業組合	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:じゃばら水の製品試作・モニター調査、販売・流通戦略の構築、じゃばら製品デザイン・PRグッズ等の開発・製作、果皮を活用した飼料の有効性の実証</li> <li>・実施時期:9月～1月</li> <li>・実施場所:北山村、東京、和歌山県農林水産総合技術センター等</li> <li>・取組の目的:じゃばらをさらに普及させるとともに、製造・消費過程で多く発生するじゃばらの果皮等の活用を図ることにより、村の活性化に寄与させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:じゃばら水の製品試作・モニター調査、販売・流通戦略の構築、じゃばら製品デザイン・PRグッズ等の開発・製作、搾りかすの活用戦略の検討</li> <li>・実施時期・場所 平成20年9月～平成21年2月 北山村、新宮市、大台町、高知県</li> <li>・取組の結果: <ul style="list-style-type: none"> <li>①「紀州のへんなみかん」「大人の食材」のコンセプトを設定し各種デザイン実施。11月からの新じゃばら販売と消費者反応調査を実施、今後の販売基盤を構築。新たな試作品としてセット商品を作成し、歳暮用時期に消費者モニタリング販売を実施、好評完売した。</li> <li>②三重県大台町の連携で、各種じゃばら水を試作。試飲の結果、果汁3%加糖なしの生産を実施。</li> <li>③じゃばら搾りかす飼料化は、和歌山県と研究会を発足して効果検証を準備。搾りかすの各種粒形での顆粒化の試作とともに、北山村の新たな特産物として「じゃばら鶏」飼育の枠組みを構築。</li> </ul> </li> </ul>
	<b>取組②</b>	「いかだ」「飛び地」など地域資源の新たな発掘の活用の実践	
	実施主体	ランドブレイン株式会社	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:資源発掘とモデル交流ツアー企画の作成、宿泊施設再生戦略の検討</li> <li>・実施時期:9月～1月</li> <li>・実施場所:北山村</li> <li>・取組の目的:「じゃばら」「筏」以外の地域資源を活用し、村の魅力、来村者の観光交流メニューの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:資源発掘調査、モデル交流ツアー企画の作成、宿泊施設再生戦略の検討</li> <li>・実施時期・場所 平成20年9月～平成21年2月 北山村、東京</li> <li>・取組の結果: <ul style="list-style-type: none"> <li>①和歌山大学学生と村民が交流して調査し、村の生活からめはり寿司・さんま寿司など家庭料理、灰窯など伝統生活用具、精神文化など、多くの活用可能資源が整理された。</li> <li>②おくとり温泉の運営・経営は、ターゲットの明確化、もてなしや料理改善、運営方法再考、他の観光メニューと連携したプログラム企画実施など、抜本的な改革の必要が明らかになった。</li> <li>③体験メニューは、「行きにくい村」をコンセプトとし、「山の焼き肉」等、特色ある企画を展開することとした。（「行きにくい」を最大資源として活用する逆転の発想が必要と確認された）</li> </ul> </li> </ul>	
<b>取組③</b>	流木・廃材・間伐材を活用した「木質バイオマスシステム」の構築		
実施主体	北山村		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施内容:自立型エネルギー供給計画の立案、おくとり温泉バイオマスボイラー導入準備、バイオマスタウン構想の策定</li> <li>・実施時期:9月～1月</li> <li>・実施場所:北山村</li> <li>・取組の目的:環境にやさしく災害時に強い自立的エネルギーシステムを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施内容:自立型エネルギー供給計画の立案、おくとり温泉バイオマスボイラー導入準備</li> <li>・実施時期・場所 平成20年9月～平成21年3月 北山村、東京</li> <li>・取組の結果: <ul style="list-style-type: none"> <li>①おくとり温泉のボイラーは、バイオマスボイラーを導入し、併せて発電設備も導入し、災害時緊急電源として自立的エネルギーシステムを構築。燃料となる薪の収集等については、村民や観光客が参画できる仕組みを構築するなど、システム自体を観光資源として活用することとした。</li> <li>②その他の資源利用や廃棄物を活用した独自の獣害対策を講じ、観光とも連携するなどの内容を盛り込んだ「バイオマスタウン構想」を作成。（今年度3月に国に提出予定）</li> </ul> </li> </ul>	

	取組④	「村ぶろ」を中心とした地域ブログ横断ポータルサイトの構築									
	実施主体	北山村									
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果								
		<p>実施内容: 地域ブログの活用戦略の再構築、横断サイトの構築、営業名刺の印刷・配付</p> <p>・実施時期: 9月～1月 ・実施場所: 北山村</p> <p>・取組の目的: ブログシステムを活用した連携により、全国各地の中山間地域の自立をめざすむらづくりを推進する。</p>	<p>実施内容: 地域ブログの活用戦略の再構築、横断サイトの構築、応援団名刺の印刷・配付</p> <p>・実施時期・場所 平成20年9月～平成21年3月 北山村、東京</p> <p>実施の結果:</p> <p>①横断ポータルサイトは、他の中山間地域との連携を図り、それぞれの地域の自立性を互助するために活用することとした。その連携に向けた内容や運営方法の再構築の必要性が確認された。</p> <p>②横断ポータルサイトシステムを製作し、他地域と接続を行い、試験運営を行った。</p> <p>③村ぶろ、じゃばら直販サイト等を通じて名刺配付者を募集し、1月現在で村内外あわせて約300</p>								
(7)実施体制		<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <p>■北山村再生推進協議会        下記の8団体から構成され、それぞれの役割を分担。        ・北山村役場(主担当: 取組③)        協議会代表団体、事務局として事業全体の取組管理を行う。        ・北山村議会 ・北山村商工会 ・北山村森林組合        ・北山村ジャバラ生産組合 ・北山村観光いかだ運行組合        分科会等の検討会議に参加するとともに、議論に加わる。        ・地域生存支援有限責任事業組合(主担当: 取組①)        事業の総合的な助言を行うとともにじゃばらの商品開発等を担当        ・ランドブレイン株式会社        事務局支援を行い、会議のとりまとめ等を実施</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>・それぞれの取組において、有識者を招いて助言を受けながら、事業を実施した。        (農産物流通コンサルタント山本謙治氏、和歌山大学鈴木裕範准教授、飯山市振興公社木村宏氏、早稲田大学岡田久典主任研究員、高知大学坂本世津夫教授など)</p> <p>・各分野の最先端で活躍する専門家の助言・支援を得られたことにより、取組の視野が広がったとともに、今後の円滑な事業実施に向けた環境整備、本事業の取組PRにも大きく貢献した。</p> <p>・商工会、森林組合、ジャバラ生産組合、観光いかだ運行組合の構成員については、的確に役割分担できなかったため、会議等における意見聴取程度の参加に終わってしまった。</p> <p>・また、一般の村民の事業への参加については、個別の意見聴取や地域資源調査の村民発表会などの機会は設けたものの、さらに村民が中心となって参加する仕組みの創出やイベント実施が必要であった。</p>								
(8)取組により得られた成果		<p>○成果1→ 「すべての村民が村の広報・営業マン」の概念から、じゃばら(及び関連商品)の売上金額</p> <table border="1" data-bbox="481 930 2121 1010"> <tr> <td data-bbox="481 930 907 962">H19</td> <td data-bbox="907 930 2121 962">H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 962 907 1010">170百万円</td> <td data-bbox="907 962 2121 1010">商品パッケージ変更、商品セット開発、新リーフレット配付等により、売上増加 目標180百万円</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>じゃばら及び関連商品の売上金額)は、1月26日現在118百万円 3月末までに昨年度並みの売上げを確保する見込み。        平成17年度 225百万円 平成18年度 192百万円 平成19年度 170百万円と下降傾向にあり、さらに経済状況悪化の影響もある中、「大人の食材」の新たなコンセプトに基づくパッケージデザインの改善や新商品セット販売の実施により、今後の減少を最小限に抑えられた。</p> <p>○成果2→ 北山村に関わる人、北山村を応援する人を増やすための、全国で北山村の営業名刺を作成した人の数</p> <table border="1" data-bbox="481 1169 2121 1249"> <tr> <td data-bbox="481 1169 907 1201">H19</td> <td data-bbox="907 1169 2121 1201">H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1201 907 1249">村の職員による作成 26名</td> <td data-bbox="907 1201 2121 1249">ブログ村民を中心に作成、配付を推進する 目標800名</td> </tr> </table> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>1月から村ぶろ、じゃばら直販サイト、道の駅などで北山村応援団名刺の作成者を募集した。1月26日現在300名が作成済み。3月末までに800名作成見込み。        名刺には北山村関連サイトのQRコードも掲載しており、名刺配付以降、村ぶろアクセス数の増加がみられた。</p>		H19	H20(当初予定していた目標)	170百万円	商品パッケージ変更、商品セット開発、新リーフレット配付等により、売上増加 目標180百万円	H19	H20(当初予定していた目標)	村の職員による作成 26名	ブログ村民を中心に作成、配付を推進する 目標800名
H19	H20(当初予定していた目標)										
170百万円	商品パッケージ変更、商品セット開発、新リーフレット配付等により、売上増加 目標180百万円										
H19	H20(当初予定していた目標)										
村の職員による作成 26名	ブログ村民を中心に作成、配付を推進する 目標800名										

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>■今後、活性化を継続させるためには、「自立する村」の方針を明確にした上で、じゃばらの普及、「行きにくい村 北山村」による観光交流の展開、横断システムによる村ぶる展開、バイオマス利活用の各プロジェクトを密接に連携させる北山村の基本戦略が確立され、相乗効果を発揮させることの必要性が明確になった。</p> <p>■各プロジェクトのコンセプト構築、体制構築は今年度で概ね出来上がったため、次年度以降は速やかな試行→実践の実施が求められる。</p> <p>■じゃばら水の製品化は今年度の試作で方向性が定まったが、本格需要期である夏場のマーケティング調査が実施できていない。平成21年度においては、この実施とともに、生産ライン確保、デザイン作成等を行い、じゃばらを一般に広めるための主力商品として本格販売させることをめざす。</p> <p>■じゃばら搾りかす活用については、今年度は効用試験まで至らなかった。このため、次年度に和歌山県試験場での鶏の飼料としての効用分析を実施するとともに、じゃばら鶏の飼育や鶏肉・鶏卵の活用・商品化戦略の構築が必要である。将来は「じゃばら鶏」を新たな地域産品・産業として育成する。</p> <p>■地域横断ブログポータルサイトについては、システム構築だけではなく、地域産品の共同販売等の連携事業の実施を行うとともに、北山ブログの方向性を明確に表現して運営し、その理念を連携先と共有すべきとことが確認された。次年度は横断ブログにより接続を試行しながら、各地域等との効果的に連携を実施することが必要である。将来的には、自立をめざすむらづくりを各地に展開して中山間地域の自立を互助する手法として確立し、中山間地域の「本物」の産品を提供するなどの相互連携展開をめざす。</p> <p>■地域資源の活用、おくろ温泉再生については、ソフト面を中心とした課題抽出や今後の方向性は示されたため、次年度以降は、各種の取組みの試行や実践に速やかに移行することが求められる。</p> <p>■バイオマスについては、短期的なバイオマス事業計画ではなく村民生活にまで踏み込んだ中長期的バイオマス利活用の取組み、観光や獣害対策と連携したを行うことが確認されたため、次年度はおくろ温泉へのバイオマスボイラーの導入とともに、村民や来村者観光客などの参加による議論や薪・炭等の活用の実践が必要である。</p>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1. 「村ぶる」の再構築と「地域ブログ横断ポータルサイト」の展開による中山間地域連携の実施</p> <p>2. 「じゃばら水」の製品化、「じゃばら鶏」の開発</p> <p>3. バイオマス利活用の展開</p> <p>4. おくろ温泉の再生・改善とモデル交流ツアーの試行</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>1-1. 「村ぶる」の再構築(H21~22) 実施主体:北山村          ・大学・NPO等との連携による村ぶる運営体制の構築          ・北山村地域情報の有効発信のための北山村公式HPと村ぶるの再構築</p> <p>1-2. 地域ブログ横断ポータルサイトの展開と地域連携(H21~22) 実施主体:北山村          ・横断サイトにより全国30程度の地域と接続、情報交流や活性化の連携事業を実施。          ・地域産品との共同販売システム等を導入し、横断サイトの効果創出をめざす。          【活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額800万円)】</p> <p>2-1. 「じゃばら水」の商品化(H21~22) 実施主体:北山村、地域生存支援有限責任事業組合          ・夏場における商品モニタリングを実施するとともに、商標や商品デザインを作成を実施する。</p> <p>2-2. 「じゃばら鶏」の開発(H21~22) 実施主体:北山村、地域生存支援有限責任事業組合          ・じゃばら搾りかすの顆粒化および鶏飼料としての効用試験を実施。          ・村内での養鶏の試行、鶏肉・鶏卵を活用した新たな商品等の開発。          【活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)】</p> <p>3-1. バイオマスボイラーの導入(H21) 実施主体:北山村          ・おくろ温泉に薪を活用するバイオマスボイラーおよび緊急時発電のためのスターリングエンジンを導入する。</p> <p>3-2. バイオマス利活用に向けた試行実験(H21~22) 実施主体:北山村          ・山林と集落の間に生ごみ集積場を設置し獣害対策を実施する等の利活用試行を実施し、その成果を検証する。          【活用を希望する制度:経済産業省等の低炭素・バイオマス関連事業】</p> <p>4-1. おくろ温泉の再生・改善及びモニターツアーの試行(H21~22) 実施主体:北山村、ふるさと振興公社          ・おくろ温泉の運営方法、料金体系、料理メニューの変更、体験プログラム実施などを試行的に行う。          ・新たな交流メニューによるモニターツアーを実施するとともに、そのためのじゃばらオーナー制度の実施、もてなし家庭料理勉強会等の実施、「山の焼き肉」等の特色メニューの開発等を行う。          【今年度の成果を活用しながら、北山村の単独事業等により実施】</p>

◆主な実施取組の内容◆

■「じゃばら」を活用した商品開発とマーケティング

＜実施取組内容＞

- ①じゃばら製品デザイン・PRグッズ等の開発・製作
- ②じゃばら水の製品試作・モニター調査
- ③絞りかす・果皮の活用戦略の検討

＜取組の結果＞

- ①「紀州のへんなみかん」「大人の食材」コンセプト設定各種デザイン実施。新じゃばら販売と消費者反応調査を実施し今後の販売基盤を構築。
- ②三重県大台町宮川の連携で、各種じゃばら水を試作。試飲の結果、果汁3%加糖なしの生産を実施。
- ③じゃばら搾りかす飼料化は、和歌山県と研究会を発足し効果検証準備。搾りかすの顆粒化とともに、新たな特産物として「じゃばら鶏」飼育の枠組みを構築。



「花粉症」⇒「大人の食材」  
「本物同士の出会い」  
北山じゃばら+宮川水  
⇒じゃばら水

■地域資源の新たな発掘の活用の実践

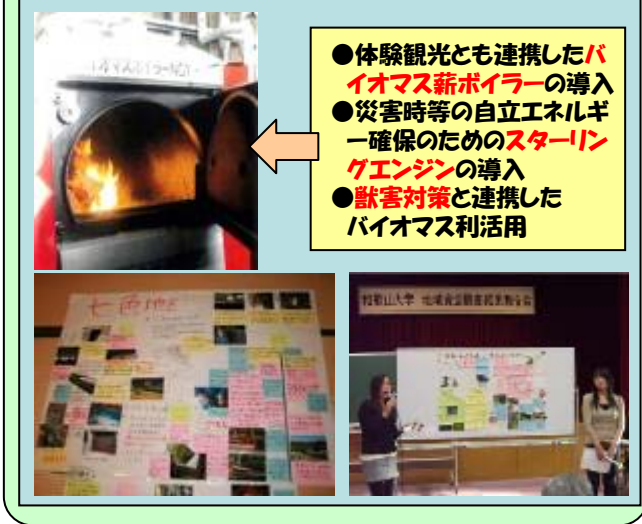
■「木質バイオマスシステム」の構築

＜実施取組内容＞

- ①和歌山大学生による資源発掘調査を実施
- ②「おくとろ温泉」等村内観光施設の検証評価
- ③「バイオマスタウン構想」の策定

＜取組の結果＞

- ①学生と村民が交流調査し、村の生活から家庭料理、伝統生活用具など多くの活用可能資源が整理された。
- ②おくとろ温泉は抜本的改革の必要が明らかになった。
- ③おくとろ温泉にバイオマスボイラーを導入し、自立的エネルギーシステム、観光資源として活用することとした。その他資源利用や廃棄物を活用した独自の獣害対策内容を盛り込んだ「バイオマスタウン構想」を作成。



- 体験観光とも連携したバイオマス薪ボイラーの導入
- 災害時等の自立エネルギー確保のためのスターリングエンジンの導入
- 獣害対策と連携したバイオマス利活用

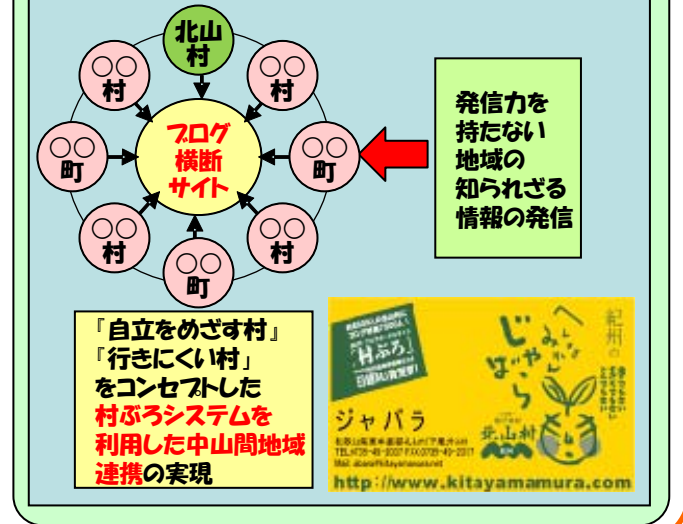
■「村ぶろ」を中心とした横断ポータルサイトの構築

＜実施取組内容＞

- ①「村ぶろ」の検証と今後の地域連携への活用方策検討
- ②地域ブログ横断ポータルサイトの構築
- ③北山村応援団名刺の作成・配付による地域PR

＜取組の結果＞

- ①「村ぶろ」は今後は日本の中山間地域活性化と相互連携のために活用することとし、地域ブログの目的の明確化、内容や運営方法の再構築の必要性が確認された。
- ②地域ブログ横断ポータルサイトは、システム製作し、運用に向けた試験、デザイン作成を実施。
- ③村ぶろ、じゃばら直販サイト等を通じて名刺配付者を募集し1月現在で村内外あわせて約300名が名刺を所有・配付している。



発信力を持たない地域の知られざる情報の発信

「自立をめざす村」「行きにくい村」をコンセプトとした村ぶろシステムを利用した中山間地域連携の実現

http://www.kitayamamura.com

◆取組実施による成果・今後の展開◆

＜全体の成果＞

- 今後、活性化を継続させるためには、「自立する村」の方針を明確にした上で、各プロジェクトを密接に連携させる北山村の基本戦略が確立され、相乗効果を発揮させることの必要性が明確になった。
- 各プロジェクトのコンセプト構築、体制構築は今年度で概ね出来上がったため、次年度以降は速やかな試行⇒実践の実施が求められる。

＜今後の展開＞

- 「自立をめざす村」のむらづくり方針、「行きにくい村」の観光コンセプトによる展開
1. 「村ぶろ」再構築と「地域ブログ横断ポータルサイト」展開による中山間地域連携
  2. 「じゃばら水」の製品化、「じゃばら鶏」の開発
  3. バイオマス利活用の展開（バイオマスボイラー等の導入）
  4. おくとろ温泉の再生・改善とモデル交流ツアーの試行